

OES005-P13

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

## “日本地質学発祥の地” 秩父とジオパーク

### Chichibu, "The Cradle of Geology in Japan", and Geopark

宮城 敏<sup>1</sup>, 本間 岳史<sup>1\*</sup>, 楡井 尊<sup>1</sup>, 小幡喜一<sup>1</sup>

satoshi miyagi<sup>1</sup>, Takeshi Homma<sup>1\*</sup>, takashi Nirei<sup>1</sup>, Obata Kiichi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>秩父まるごとジオパーク推進協議会

<sup>1</sup>The Chichibu Geopark Promotion Council



“日本地質学発祥の地” 秩父とジオパーク

秩父地域は多種多様な年代・岩石からなる魅力的なジオサイトを有し、日本列島の地質に関する

先駆的でかつ重要な調査・研究の舞台となった場所であることから、“日本地質学発祥の地”と言われている。E. ナウマンの秩父地質調査（1878年）、大塚専一による“秩父古生層”の命名（1887年）、小藤文次郎による「紅簾石片岩」の発見（1888年）、原田豊吉による「山中地溝帯」白亜系の研究（1890年）など、日本列島の地質の模式的研究が行われた場所は、枚挙にいとまがない。また、これらのジオサイトは、地質学を学ぶ学生の校外学習の定番とされており、明治以来、地質学徒の育成にも大きく貢献して現在に至っている。大正年間には地質巡検に宮沢賢治や保阪嘉内らも訪れ、歌に詠み込んだ地質露頭も各地に見られる。校外学習の拠点である埼玉県立自然の博物館（1981年設立、2006年改称）は、秩父鉱物標本陳列所（1922年設立）、秩父自然科学博物館（1949年設立）以来の長い伝統を受け継いでいる。

特に有名なジオサイトとしては、名勝・天然記念物「長瀨」の岩畳がある。長瀨の荒川河床には3万㎡の岩石段丘が発達し、三波川結晶片岩が広く露出する。この付近の結晶片岩の片理面は、ほぼ水平で、あたかも畳を累々と積み上げたように見えることから、地元ではこの岩石段丘を「岩畳」と呼んでいる。また、秩父盆地の中央部、小鹿野町奈倉の東、大きく蛇行する赤平川右岸の攻撃面には、高さ100m、幅400m近くの崖が形成されており、「ようばけ」と呼ばれている。この迫力のある大露頭は、新第三紀層とその堆積構造の観察に極めて適している。周辺の奈倉層からは、貝類やカニ類の化石が多産し、パレオパラドキシアやチチブクジラなどの大型脊椎動物化石が多数発見されている。なお、708年に秩父地域から朝廷に献上された和銅ゆかりの地を訪ねるジオツアーコースなどを構築していく予定である。

2010年2月2日には、秩父地域の1市4町や関連団体等で構成される「秩父まるごとジオパーク推進協議会」が設立された。このような魅力ある秩父を“まるごとジオパーク”として地域住民への普及啓発をはかるため、ジオサイト観察会やバスツアー、講演会などを、地質学会等の支援を受けながら地域で活動するNPO団体等とともに企画・実施している。

キーワード:秩父,日本地質学発祥の地,ジオサイト,長瀨岩畳,ようばけ,宮沢賢治

Keywords: Chichibu, the cradle of geology in Japan, geosite, Rock Terrace in Nagatoro, Youbake, Miyazawa Kenji